

平成26年山梨県観光入込客統計調査結果

調査方法 ~観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく調査(平成22年4月より導入)

- 観光入込客数調査・・・398地点(施設等305地点、行祭事・イベント93)
- ・ 自然(山岳、湖等)、文化歴史(神社、美術館、ワイナリー等)、温泉、スポーツレクリエーション(公園、遊園地等)、都市型観光(農産物直売所等)、その他(道の駅等)、行祭事・イベントなど、県内の観光地や観光施設に対して、来客の利用状況を調査
- アンケート調査・・・3,213サンプル
- ・ 対面聞き取り方式
 - ・ 四季毎に、年4回×県内10箇所を調査
 - ・ 主な質問項目：性別、年齢、居住地、旅行目的、消費動向、利用交通機関、満足度 等
- 宿泊客数調査・・・1,314施設
- ・ 観光庁が実施する宿泊旅行統計調査の結果を使用。

結果概要

山梨県観光入込客(実人数)は3,001万7千人であり、前年比 +1.1%

- ・ 日帰り客(実人数)は2,262万4千人であり、前年比 -2.3%
 - ・ 宿泊客(実人数)は739万3千人であり、前年比 +13.4%
 - ・ 県外客(実人数)は2,273万2千人であり、前年比 +2.8%
 - ・ 県内客(実人数)は728万5千人であり、前年比 -3.6%
- 県外客には外国人を含む

外国人延べ宿泊者数(速報値)は94万2千人であり、前年比 +91.3%

外国人延べ宿泊者数に関しては観光庁宿泊旅行統計調査の数字を比較

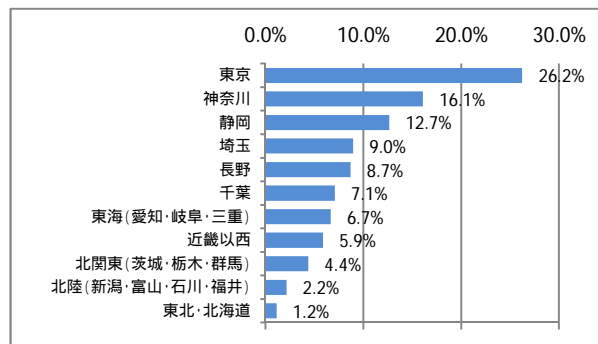
観光消費額は、県全体で4,460億円であり、前年比 +22.4%

1人当たりの平均観光消費額は、14,858円であり、前年比 +21.1%

~アンケート調査結果~

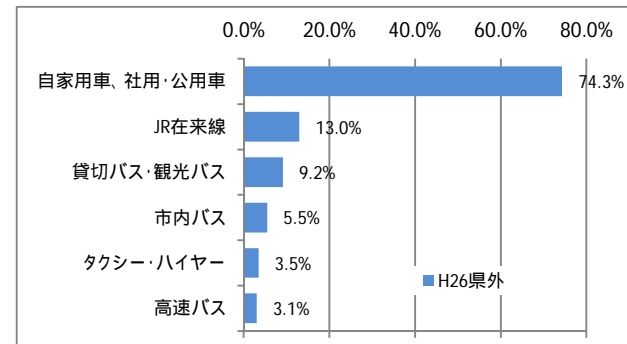
・ 県外観光客の居住地

本県から近い距離の都県が大半を占めており、隣接都県からの来訪者は72.7%を占める。



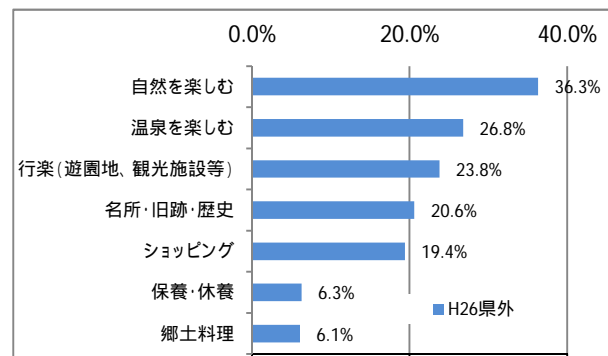
・ 県外観光客の交通手段(複数回答)

車を利用した来県者が圧倒的に多く、次いでJR在来線の利用が多い。



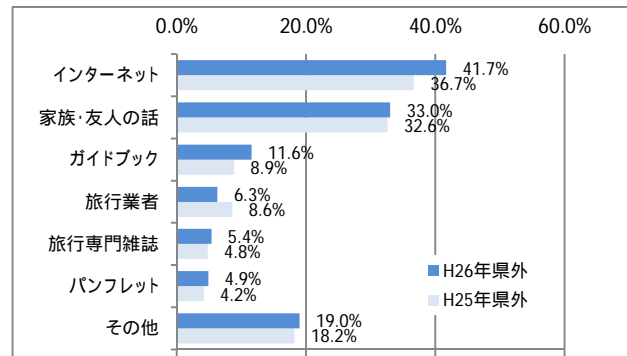
・ 県外観光客の旅行目的(複数回答)

昨年に引き続き、自然や温泉を楽しむ目的での来県者が多い。



・ 旅行計画の参考資料(複数回答)

インターネットでの情報や普段身近に接する人からの情報を旅行の参考とする来県者が多い。

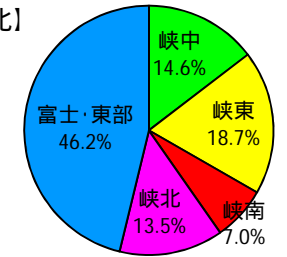


圏域別の比較(実人数)

県全体では微増であるが、圏域別では峡中、峡南、峡北の3圏域において減少し、峡東及び富士・東部圏域では増加。富士・東部及び峡東圏域においては、平成23年から増加を続けている。

- ・ 峡中は439万1千人であり、前年比 -4.3%
- ・ 峡東は561万9千人であり、前年比 +4.5%
- ・ 峡南は209万人であり、前年比 -2.7%
- ・ 峡北は404万7千人であり、前年比 -4.5%
- ・ 富士・東部は1,387万人であり、前年比 +4.1%

【圏域別構成比】



月別の比較(実人数、3カ年比較)

概況

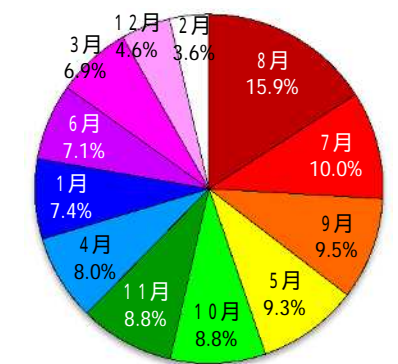
- ・ 平成25年と比較して1.1%の増加、平成24年と比較して9.7%の増加となった。
- ・ 一年のうちで8月が478万人(15.9%)と最も多く、次いで7月、9月と続く。
- ・ 伸び率が最も高かったのは1月であり、前年比24.7%の増加。一方、伸び率が最も低かったのは2月の前年比30.9%の減少であり、大雪の影響が非常に大きい。

【三カ年比較表】

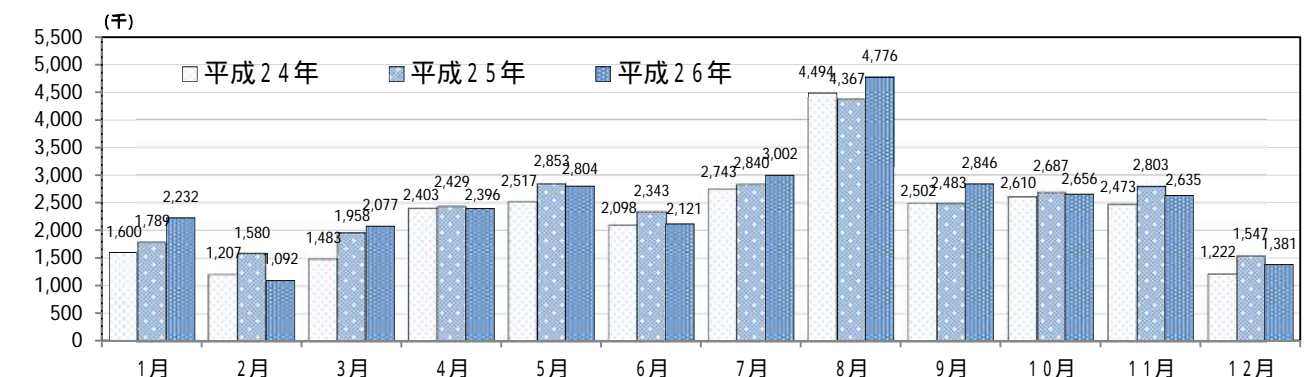
(単位:人、%)

項目	平成24年	平成25年	平成26年	対前年比	対前々年比
1月	1,599,975	1,789,395	2,231,725	124.7%	139.5%
2月	1,206,782	1,580,109	1,091,550	69.1%	90.5%
3月	1,483,243	1,957,557	2,076,894	106.1%	140.0%
4月	2,402,975	2,429,422	2,395,805	98.6%	99.7%
5月	2,516,816	2,852,782	2,803,601	98.3%	111.4%
6月	2,098,208	2,343,116	2,120,823	90.5%	101.1%
7月	2,743,076	2,839,956	3,002,094	105.7%	109.4%
8月	4,493,550	4,366,908	4,776,161	109.4%	106.3%
9月	2,502,374	2,483,176	2,846,438	114.6%	113.7%
10月	2,609,626	2,686,868	2,655,787	98.8%	101.8%
11月	2,472,802	2,802,535	2,634,851	94.0%	106.6%
12月	1,221,572	1,546,613	1,381,114	89.3%	113.1%
年計	27,351,000	29,678,438	30,016,843	101.1%	109.7%

【平成26年月別構成比】



【三カ年比較グラフ】



月別の傾向

- ・ 1月、3月は、富士山の世界文化遺産登録による増加傾向が継続しており、特に富士・東部圏域の富士山周辺地域での増加が顕著であった。2月の観光史上最高の豪雪の影響も3月には対前年比で増に転じるなど回復した。
- ・ 2月は、前年比で30.9%と大幅に減少。県の気象観測史上最大の豪雪の影響から、交通機関の乱れが続いたことやイベントの中止、施設の休業などが各地で見られ、ほぼ県内全域で観光客数が落ち込んだ。
- ・ 4月~6月は、県内全体で減少。消費税の増税、ガソリン価格の高騰、休日特別割引等高速道路のETC割引の一部終了の影響や、前年に富士山の世界遺産登録で大幅に増加した反動が考えられる。
- ・ 7月~9月は、県内全域で各月とも増加。昨年の猛暑・残暑から一転して好天気であったこと、7月末から8月にかけて実施された全国高等学校総合体育大会で県内が競技会場となったこと、NHK連続テレビ小説「花子とアン」による注目度の上昇などの要因が考えられる。
- ・ 10~12月は、各月で減少。10月に襲来した台風18号及び19号、12月には気温が低いまま推移するなど、天候の影響があると考えられる。